

# 梅若研能会



一月公演

【翁の面】

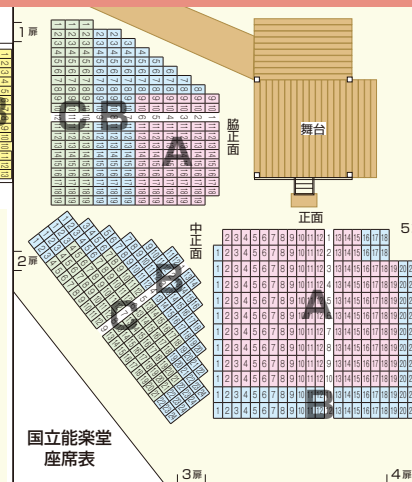
令和8年1月12日(月・祝)午後1時始(開場12時)  
於 国立能楽堂

National Noh Theater 4-18-1, Sendagaya, Shibuya-ku, Tokyo  
Monday holiday 12 January 2026 Start 13:00 (door open 12:00)

## 国立能楽堂

東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-1  
☎ 03 (3423) 1331

- JR千駄ヶ谷駅 徒歩5分
- 大江戸線・国立競技場駅 徒歩5分
- 副都心線・北参道駅 徒歩7分



### 入場料(全席指定)

|              |               |
|--------------|---------------|
| 指定席 A 8,000円 | 指定席 B 6,000円  |
| 指定席 C 4,000円 | 指定席 GB 5,000円 |

※学生席(要学生証)各席3,000円引き

お問い合わせ・お申し込み

e+ (イープラス) <https://eplus.jp/ath/word/69495>

カンフェティ TEL0120(240)540 (平日10:00-18:00)

<http://www.confetti-web.com/umeken>

## 主催 公益財団法人 梅若研能会

〒151-0066 渋谷区西原1-4-2 TEL 03(3466)3041

〈メールアドレス〉 [staff@umewakakenohkai.com](mailto:staff@umewakakenohkai.com)

〈ホームページ〉 <http://www.umewakakenohkai.com>

YouTube 演目の見どころ解説動画を公開中!

Facebook はじめました! 公演情報更新中!

### 令和8年梅若研能会 公演開催日のお知らせ

|       |        |                               |
|-------|--------|-------------------------------|
| 四月公演  | 4月12日  | 国立能楽堂 「小督」 長谷川晴彦、「熊坂」 青木健一    |
| 六月公演  | 6月14日  | 観世能楽堂 「蟬丸替之型」 加藤真悟、「船弁慶」 梅若紀佳 |
| 十二月公演 | 12月13日 | 国立能楽堂 「隅田川」 八田達弥、「大瓶狸々」 古室知也  |



### 「翁」、能「小鍛冶」みどころ講座

12月7日(日) 13:00 ~ 14:30

於・梅若万三郎家能舞台(渋谷区西原1-4-2)

受講料 1,000円 (※研能会入場券購入者は無料)

講師 「翁」梅若 志長(うめわか ゆきな)

「小鍛冶」梅若 紀佳(うめわか のりか)

# 梅若研能会 一月例会

令和八年一月十二日(月・祝)午後一時始(十二時開場) 於 国立能楽堂

(二時)

## 翁



翁 梅若 志長  
千歳 梅若 紀長  
三番叟 野村 裕基  
面箱 中村 修一

笛 栗林 祐輔  
頭取 大倉源次郎  
脇鼓 大倉伶士郎  
脇鼓 長尾 樹  
大鼓 大倉慶乃助

後見 加藤 眞悟  
狂言後見 野村 萬斎  
梅若 泰志  
深田 博治

地謡 青木 健一  
長谷川晴彦  
八田 達弥  
遠田 修  
古室 知也



【翁】三世 梅若万三郎 (前島写真店)

(二時十分頃)

## 狂言 文蔵

シテ(主) 野村 万作  
アド(太郎冠者) 内藤 連  
後見 飯田 豪



【文蔵】野村万作 (撮影・吉越研)

休憩二十分

仕舞

## 高砂 北

梅若 泰志  
加藤 眞悟

萩原 郁也  
古室 知也  
中村 裕  
伊藤 嘉章  
中村 政裕

地謡

## 翁 (おきな)

能の中で成立がもっとも早く、神聖視されて大切に扱われる曲。翁大夫が祝福を述べ、千歳による露払いの舞のあと、白式尉の面により神となった大夫が天下泰平・寿命長遠を祈祷する荘重な舞を舞う。続いて三番叟(狂言方)により《揉之段》、面箱(狂言方)の願いで黒式尉の面をかけた黒い翁神の《鈴之段》が舞われ五穀豊穰を祈念する。梅若志長は【令和7年元日丹波篠山春日神社「翁」神事】で披キ(初演)を済ませているが、能楽堂での翁は今回が初演。二世万三郎が披キの時には初世万三郎が、三世万三郎の時には二世万三郎が千歳を勤めたことに倣い、今回、梅若紀長が千歳を勤める。

## 狂言 文蔵 (ぶんざう)

主に無断で出掛けた太郎冠者。聞けば、都見物に行き主の伯父に旨いものをご馳走になったが、食べ物の名は、主の愛読書にある石橋山合戦の場面に関わりがあるらしく……。

主(シテ)が頼朝方の副将軍・真田与一や平家方の俣野(しかたばなし)を仕方話で巧みに演じ分け合戦の場面を語る。語りの素晴らしさを堪能できる作品。ちなみに文蔵家安は真田与一の守役を勤めた老武者の名。

## 仕舞 高砂 (たかさご)

高砂から相生の松の精霊に導かれ住吉へやって来た神主の前に現れた住吉明神(シテ)は悪魔を払い福徳を抱く神の舞を颯爽と舞う。

## 仕舞 東北 (とうほく)

和泉式部の梅を縁に、木陰で読経する僧の前に現れた和泉式部の霊(シテ)は、東北院や都のありさまを語り舞う。

## 能 小鍛冶 (こかじ)

天下を安寧に治める霊剣を打つよう勅命を受けた三條小鍛冶宗近は、同等の技量を持つ相鎚役がないことを悩み稲荷明神に祈願する。そこへ来た童子(前シテ)は宗近を励まし、日本武尊の草薙の剣の神話を語り、力添えを約束し姿を消す。祭壇を築き身を清めた宗近が祈りを捧げると、稲荷明神(後シテ)が現れ、約束通り相鎚を勤め、宗近は名刀・小狐丸を打ち上げる。

(三時五分頃)

## 能 小鍛冶



梅若 紀佳

前シテ(童子) 梅若 紀佳  
後シテ(稲荷明神) 梅若 紀佳  
前ワキ(三條宗近) 則久 英志  
後ワキ(前同人) 則久 英志  
ワキツレ(勅使) 御厨 誠吾  
ワキ後見 渡部 葵  
アイ(宗近ノ下人) 高野 和憲

笛 藤田 次郎  
小鼓 鶴澤洋太郎  
大鼓 柿原 孝則  
太鼓 林 雄一郎

後見 中村 裕  
青木 健一  
梅若 紀長

加野 鉄音 長谷川晴彦  
梅若千音世 伊藤 嘉章  
萩原 郁也 青木 一郎  
中村 政裕 八田 達弥

地謡



【小鍛冶】三世 梅若万三郎

(終演予定 四時頃)